

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

佐賀県 武雄市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	2,325	極小規模	1	157
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	99.6	3	230	非設置	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和4年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・本事業の給水区域としては、市内の工業団地を前提としている。対象事業所数が少なく、契約水量・有収水量も少ないため、料金収入だけでは事業経費を賚らない状況にある。不足分については一般会計補助金で補填している。

・「流動比率」は、4条支出が無かったため、大幅に増加している。

・「料金回収率」は、供給単価に対し給水原価が著しく高いため、類似団体平均値を下回っている。

・「経常収支比率」は、前年度より減少しているが、経常収支比率の増減は、水源地である矢管ダムの施設整備事業に係る負担金額の変動による影響が大きい。

・「企業債残高対給水収益比率」は、令和3年度にすべての企業債を償還し終え、新たな借入も無いことから、0になっている。

・「施設利用率」及び「契約率」は、前年度から契約水量が減少したことにより微減となっている。基本的に、契約水量は供給先事業所の経営状況等に左右されるため、今のところ需要増は見込めず、厳しい経営状況が続いている。

2. 老朽化の状況について

本事業は、平成6年4月より給水を開始しており、「有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均値を上回っている。

管路については耐用年数を経過しておらず、「管路経年化率」・「管路更新率」の数値は算出されていない。

現在、杵島工業用水道との移管に向けて協議中である。移管までの間は、工業用水の安定供給を図る必要がある。更新計画を始め、耐用年数や現地の状況を見ながら、必要な機械設備等の更新に取り組んでいる。

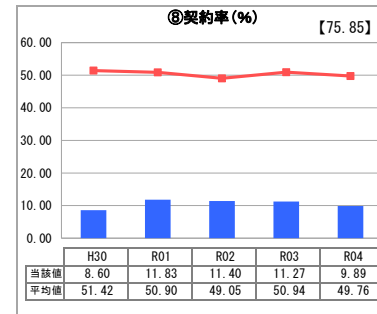
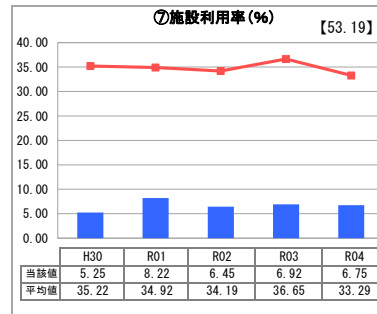
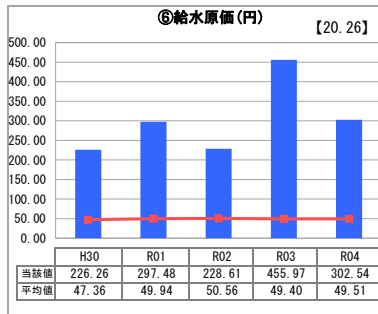
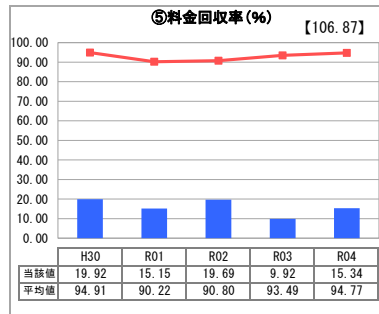
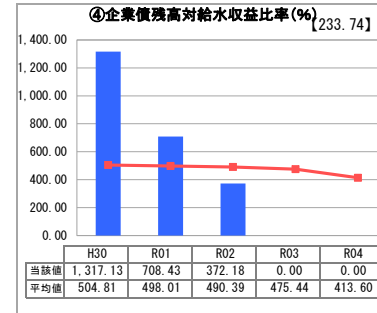
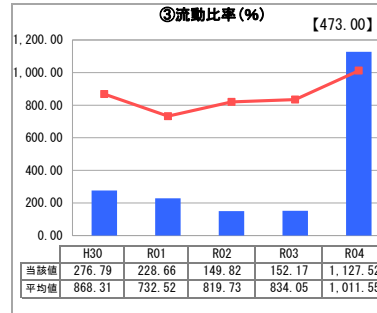
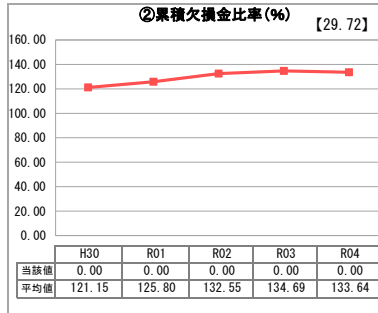
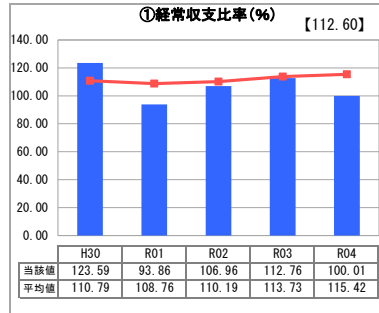
全体総括

工業用水道事業は、企業誘致・雇用創出・地域経済の振興に一定の役割を果たしており、企業誘致等関係部署との連携・調整を図りながら、事業を進めて行く必要がある。

また、工業用水の安定的な供給に努めるとともに、健全な経営を継続して行けるよう、長期的な視点で経営判断を行う必要がある。

現在、武雄市内には武雄工業用水道と杵島工業用水道の2系統の工業用水道があるが、杵島工業用水道企業団への移管協議が進んでいる。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

